

2016年8月10日

日立と三菱重工がX線治療装置事業の譲渡で合意

(株)日立製作所と三菱重工業(株)は、X線治療装置事業について、事業譲渡契約を締結し、三菱重工のX線治療装置事業を日立に譲渡することで合意した。今回の合意により、日立はX線治療システムの顧客基盤を拡大し、技術を取得することで、従来から展開している粒子線治療システム事業とあわせ、放射線治療システム事業を強化・拡大していく。

日立はヘルスケア分野を社会イノベーション事業における注力4事業分野の一つと位置づけ、超音波診断装置やMRIシステム、粒子線がん治療システムなどの診断・臨床分野からITを活用したサービス、地域包括ケアなどのインフォマティクス分野まで、医療の質向上と効率化を実現するソリューションを提供している。

一方、三菱重工は事業の選択と集中を進めており、事業の統合・再編や譲渡によるリソース面での余力をほかの伸長分野に投入することで、さらなるグローバル展開に取り組んでいる。

放射線治療は患部を切除することなく治療を行えるため、身体への負担が比較的少ないがん治療法として、近年、急速に進展している。日立は、放射線治療の一つである粒子線治療システムで、すでに日本や北米の著名病院に多数の納入実績があり、その技術とサポート体制は高く評価されている。また、今後、日本やアジアでの市場拡大が見込まれているX線治療システム分野では、高精度放射線治療で世界トップクラスの米国**Accuray Incorporated**のトモセラピーシステムを2012年7月から日本国内で独占販売するなど、幅広く放射線治療ソリューションを提供している。

今回の合意に基づき、日立は、三菱重工が持つX線治療装置の技術を活用することで、X線治療システム事業を強化していく。また、治療計画も含め、トータルで放射線治療システムを提供することで、今後も、**Quality of Life**を向上する最先端の放射線医療・がん治療に貢献していくとともに、ヘルスケア事業のさらなる強化・拡大を図っていく。

以上